

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	桜花学園大学
設置者名	学校法人 桜花学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
保育学部	保育学科	夜・通信	2		17	19	13	
	国際教養こども学科	夜・通信			14	16	13	
学芸学部	英語学科	夜・通信			22	24	13	
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/syllabus/hoiku/2019/jitumu-list.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	桜花学園大学
設置者名	学校法人 桜花学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/yakuinmeibo.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前桜花学園高校校長	2017.12.3 ～ 2021.12.2	教学（高校）
非常勤	前桜花学園大学学長	2017.4.1 ～ 2021.3.31	教学（大学）
非常勤	元法人本部総務部長	2017.12.3 ～ 2021.12.2	総務・人事
非常勤	前法人本部総務部長・元 高校事務長	2017.12.3 ～ 2021.12.2	人事・財務
非常勤	ATグループ代表取締役社 長	2017.12.3 ～ 2021.12.2	経営・財務
非常勤	近藤堯夫法律事務所 弁護士	2017.12.3 ～ 2021.12.2	コンプライアンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	桜花学園大学
設置者名	学校法人桜花学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画 (シラバス) の作成過程 2018年度末よりFD活動の一環として、非常勤講師打合せ会にシラバス作成要領についての説明会を実施することとした。シラバスの内容・作成要領については教務委員会で検討し、決定した内容に基づき作成依頼を行うこととしている。 ・ 授業計画の作成・公表時期 シラバスの作成については、毎年12月中旬に開講科目すべてを対象として、担当者宛てに作成依頼を送付し、担当者は、1月中旬までにWebでの登録を完了し、学科長・教務委員のチェックを経て、新年度の履修登録前までにHP上で公開している。 	
授業計画書の公表方法	https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/syllabus/hoiku/syllabus.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>すべての授業科目において毎回の出席確認を実施し、あらかじめ授業計画(シラバス)に記載している評価方法に基づき厳格に学修成果を評価し、単位を与えている。また、評価の基準についても履修規程に明記している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- ・ GPA等の客観的な指標の具体的な内容
履修科目ごとの成績評価をAA(秀)、A(優)、B(良)、C(可)、F(不可)の5段階評価に対して、4、3、2、1、0のグレードポイント(GP)を付与し、個々の履修科目のGPにそれぞれの単位数をかけ、その合計値を履修登録科目の総単位数で割った平均値をGPAとする。
- ・ 客観的な指標の適切な実施状況
あらかじめ設定した算出方法により算出したGPAを、前期・後期の年2回の試験終了後の成績発表時に個別に通知している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/syllabus/hoiku/2019/160002.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

<ディプロマポリシー>

桜花学園大学は、建学の精神に基づき「信念ある女性」を育成することを基本目的とし、幅広い知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をお互いに優れた人材を育成し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを社会的使命としています。各学部の教育目的・教育目標に沿って設定された教育課程を履修し、厳格な成績評価を経て、幅広く専門的知識と教養を修得することにより、現代の多様な課題を発見、分析、解決し、社会に貢献できる能力を身につけたと認められる者に対して学士の学位を授与している。

<保育学部ディプロマポリシー>

保育学部の教育理念は「参加・共同・創造」であり、学生は、保育学部の教育理念を実現し、「豊かな学びの共同体」としての保育学部を創造する責任ある構成員であります。学生は「学習権」を享受する責任ある主体であり、教育・保育学に関する体系的な教育・研究をもって組織されている保育学部の学びへの能動的な参加を通して、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度の専門性を具えた有為な職業人としての社会的な自己実現を達成することが求められ、支援している。

保育学部は、以上の教育理念・目標に照らして、所定の科目を履修し124単位以上を修得した学生に、「学士(保育学)」の学位を授与します。総合的な人間学としての教育・保育学は実践の学でもあるので、学生は理論と実践を統一した学びが期待されます。保育学部の教育への能動的な参加を通して学生に求められる学びの課題(学生の到達目標)は以下のとおり。

- (1) 自主的、主体的に学び活動する力(高い学習意欲、永続的な自己開発意欲の形成)
〔具体的な目標〕
1. 授業（実習、インターンシップ等を含む）への積極的な参加
 2. サークル、委員会、ボランティア活動等の授業外の活動への積極的な参加
 3. 学内外の社会参加・体験学習への積極的な参加
- (2) 他者と交流・協力し、学びあう力（豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラルの形成）
〔具体的な目標〕
1. 現代社会の求めるコミュニケーション能力を支える知識・技術の修得
 2. ゼミ、サークル、委員会、ボランティア等での責任ある役割の遂行
 3. 豊かな人間性と社会的モラルに基礎づけられたことば・態度・行動の実現
- (3) 課題を発見・理解し解決しうる力(豊かな教養、専門的な知識・技術、思考力、判断力の形成)
〔具体的な目標〕
1. 卒業研究を含め、卒業に必要な科目を履修し、全体として卒業要件の124単位以上の修得
 2. 教育・保育専門職として希望する免許・資格に関わる科目を履修し、必要な単位の修得
 3. 教育・保育専門職としての実践的（専門技術的・技能的）能力の多面

<学芸学部ディプロマポリシー>

学芸学部は人文・社会科学の諸分野に関わる学芸を教授研究し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する「信念ある女性」を育成することを目的としています。英語学科では「幅広い教養と論理的・創造的な思考力」および「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」を持った人材を育成することを目的としています。この教育目的に基づく教育課程を履修し、厳格な成績評価を経て卒業に必要な単位を修得し、以下に挙げる能力を身につけた者に対して、学芸学部英語学科は学士の学位を授与している。

1. グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力
2. グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力
3. 修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力
4. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

本学では各開講科目について、授業計画（シラバス）作成にあたり、ディプロマポリシーとの関連性を記載することとしており、そのポリシーのもとに実施される授業に対して、あらかじめ設定された評価方法・基準に沿って厳格に評価された成績評価を基に単位を修得させ、卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/outline/policy.htm>
1

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	桜花学園大学
設置者名	学校法人桜花学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ohka.ac.jp/outline/report.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.ohka.ac.jp/outline/report.html
財産目録	https://www.ohka.ac.jp/outline/report.html
事業報告書	https://www.ohka.ac.jp/outline/report.html
監事による監査報告(書)	https://www.ohka.ac.jp/outline/report.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書)	対象年度:R1)
公表方法: https://www.ohka.ac.jp/outline/report.html	
中長期計画(名称:中長期計画)	対象年度:2018~2022年度)
公表方法: https://www.ohka.ac.jp/outline/report.html	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/hyouka.html>

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/hyouka.html>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 保育学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/syllabus/hoiku/2019/164002.pdf) (概要) 桜花学園大学（以下「本学」という。）は、教育基本法、学校教育法及び建学の精神に基づき、学校法人桜花学園の設置目的である信念ある女性を育成することを基本目的として、広く知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をおねそなえた優れた人材を育成するとともに、保育学部にあつては教育学・保育学にかかわる学芸、学芸学部にあつては 人文・社会科学の諸分野にかかわる学芸を教授研究し、深く真理を探究して新たな知見を 創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを目的としている。 本学の設置する各学科における人材の養成に関する目的、その他の教育研究の目的は次の 各号に定めるとおりとする。 (1) 保育学部保育学科は、豊かな教養と社会人としての基礎的能力、専門職としての豊かな専門的知識・技能、自己開発能力を有し、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる 高度の専門性を具えた有為な教育保育専門職の養成を目的とする。 (2) 保育学部国際教養こども学科は、社会のグローバル化に対応した豊かな教養と基礎的能力を有し、グローバルな視点に立って幼児期の教育保育を担い、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度の専門性を具えた有為な教育保育専門職の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/outline/policy.html) (概要) 桜花学園大学は、建学の精神に基づき「信念ある女性」を育成することを基本目的とし、幅広い知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をおねそなえた優れた人材を育成し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを社会的使命としています。各学部の教育目的・教育目標に沿って設定された教育課程を履修し、厳格な成績評価を経て、幅広く専門的知識と教養を修得することにより、現代の多様な課題を発見、分析、解決し、社会に貢献できる能力を身につけたと認められる者に対して学士の学位を授与している。 保育学部の教育理念は「参加・共同・創造」であり、学生は、保育学部の教育理念を実現し、「豊かな学びの共同体」としての保育学部を創造する責任ある構成員であります。学生は「学習権」を享受する責任ある主体であり、教育・保育学に関する体系的な教育・研究をもって組織されている保育学部の学びへの能動的な参加を通して、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度の専門性を具えた有為な職業人としての社会的な自己実現を達成することが求められ、支援している。 保育学部は、以上の教育理念・目標に照らして、所定の科目を履修し124単位以上を修得した学生に、「学士（保育学）」の学位を授与します。総合的な人間学としての教育・保育学は実践の学びでもあるので、学生は理論と実践を統一した学びが期待

されます。保育学部の教育への能動的な参加を通して学生に求められる学びの課題（学生の到達目標）は以下のとおり。

(1) 自主的、主体的に学び活動する力(高い学習意欲、永続的な自己開発意欲の形成)

〔具体的な目標〕

1. 授業（実習、インターンシップ等を含む）への積極的な参加
2. サークル、委員会、ボランティア活動等の授業外の活動への積極的な参加
3. 学内外の社会参加・体験学習への積極的な参加

(2) 他者と交流・協力し、学びあう力（豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラルの形成）

〔具体的な目標〕

1. 現代社会の求めるコミュニケーション能力を支える知識・技術の修得
2. ゼミ、サークル、委員会、ボランティア等での責任ある役割の遂行
3. 豊かな人間性と社会的モラルに基礎づけられたことば・態度・行動の実現

(3) 課題を発見・理解し解決しうる力(豊かな教養、専門的な知識・技術、思考力、判断力の形成)

〔具体的な目標〕

1. 卒業研究を含め、卒業に必要な科目を履修し、全体として卒業要件の124単位以上の修得
2. 教育・保育専門職として希望する免許・資格に関わる科目を履修し、必要な単位の修得
3. 教育・保育専門職としての実践的（専門技術的・技能的）能力の多面的な開発

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

本学では各開講科目について、授業計画（シラバス）作成にあたり、ディプロマポリシーとの関連性を記載することとしており、そのポリシーのもとに実施される授業に対して、あらかじめ設定された評価方法・基準に沿って厳格に評価された成績評価を基に単位を修得させ、卒業を認定している。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/outline/policy.html>）

（概要）

桜花学園大学は、各学部・学科が定める教育目的・教育目標に基づき、学生に幅広い教養的知識を提供する「共通教育科目」と各学部学科に於いて求められる専門的知識・技能を修得するための「専門教育科目」の二本の柱でカリキュラムを編成します。「共通教育科目」は、幅広い視野を育成し、多面的・論理的な思考力とグローバルなコミュニケーション能力を養い、総合的な人間力を身につけることを目的とします。各学部の「専門教育科目」は、専門的な知識と技能を身につけ、社会の変化に対応し、現代の多様な課題を解決し、社会に貢献できる能力の育成を目的とします。将来の目標や取得を希望する免許・資格に合わせて、段階的・体系的に学修できるようカリキュラムを編成している。

保育学部の教育課程は、教育・保育の課題を乳幼児期から児童期の子どもの発達理

解と発達環境の諸側面の課題をふまえ、総合的・構造的に、理論と実践を結びつけて探求できるように編成するとともに、小学校教諭一種免許、幼稚園教諭一種免許、保育士資格の取得に必要な科目を希望するすべての学生が履修できるように編成している。

保育学部は1年から4年までゼミと実習を系統的に配置している。ゼミ（1年：基礎演習、2年：総合演習Ⅰ、3年：総合演習Ⅱ、4年卒業研究）は学生の個別指導の基礎単位として保育学部のチュートリアルシステムの基盤であるとともに、保育学部教育への学生参加の基盤としている。実習は、取得を希望する免許・資格に対応して、幼稚園、保育所、小学校等で段階的に実施している。

保育学部の教育課程の系統的な学修を通して、教育・保育専門職として求められる総合的で高度な力量を培うとともに、社会に貢献しうる人材として自らを開発することが可能である。

教育課程編成の基本構造

(1) 教育課程の全体を基礎教育科目と専門教育科目に区分し、さらに専門教育科目を関連教育科目と専攻教育科目とに区分している。

基礎教育科目

人間存在および人間の生み出した文化を広く理解し、変化発展しつつある現代社会の課題を把握しうる基礎的、歴史的視野を養う教養科目群、国際化・情報化という今日の社会変化に対応しうる、また心身ともに健康で、自主的・総合的に思考し判断しうる、情報処理能力、外国語運用能力、表現能力、問題発見・解決能力をそなえた人材の育成に資する科目群。

専門教育科目

保育学部としてのグローバルな課題を探求する専門教育科目を関連教育科目とし、保育学科固有の専門職養成に関わる教育・保育に関わる専門教育科目を専攻教育科目として相互に密接な連関をもたせて構造的に配置している。

〔関連教育科目〕

1. 人間発達関係科目

人間の発達について理解するための科目群（乳幼児期から児童期の発達を軸にしなが、健常児のみならず障害児等さまざまな問題やハンディキャップを抱える児童を含めその心身の発達を生涯にわたる発達をも見通して理解するための科目群）

2. 発達環境関係科目

全体の科目群を発達環境に関わる自然、情報・コミュニケーション、文化・スポーツ・芸術、教育、家庭・地域、社会福祉・社会保障、企業の7系列に区分して、人間の発達環境（とりわけ乳幼児期から児童期の発達環境）に関わる諸課題を総合的に理解するための科目群

〔専攻教育科目〕

1. 教育・保育の基礎および専門職論に関する科目群

2. 教育・保育の内容・方法に関する科目群

3. 教育・保育の実践主体の専門的技術・技能の学修に関する科目群

4. 教育・保育に関わる体験的学修に関する科目群（実習に関する科目群）

5. 教育・保育に関する総合的な学修・研究に関する科目群（ゼミ、卒業研究等の科目群）

(2) 幼稚園教諭、小学校教諭、保育士資格等の教育・保育専門職としての資格・免許

<p>を取得しうる教育課程としても編成してある。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/outline/policy.html)</p>
<p>(概要) 桜花学園大学保育学部は、保育学・教育学に関する体系的な教育・研究を通して、学生の社会参加と自己実現を支援し、もって人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度の専門性を具えた有為な職業人を養成するとともに、社会の要請に応えつつ保育の社会的な発展に貢献することを社会的使命とする学部である。 保育学部は、そのような社会的使命を実現するため、「参加・共同・創造」を教育理念として掲げ、学生とともに学部づくりを進めています。保育学部は、参加意識が高く、協働して学部教育を創造しうる次のような学生を求める。</p> <p>保育学部 保育学科の求める学生像</p> <p>教育・保育専門職をめざすものとして、高度の専門性（専門的な知識や技術）を自らのものとして修得しうる能力の高い学生 教育・保育専門職をめざすものとして、求められる「不断の研究」に対応し、継続的な学習意欲と自己開発の意欲に富んだ学生 教育・保育専門職をめざすものとして、豊かな適性と明確な目的意識を有する学生</p> <p>保育学部 国際教養こども学科の求める学生像</p> <p>教育・保育専門職をめざすものとして、高度の専門性（専門的な知識や技術）を自らのものとして修得しうる能力の高い学生 教育・保育専門職をめざすものとして、求められる「不断の研究」に対応し、継続的な学修意欲と自己開発の意欲に富んだ学生 教育・保育専門職をめざすものとして、豊かな適性と明確な目的意識を有する学生 教育・保育専門職をめざすものとして、異文化コミュニケーション能力を有し、文化的背景が異なる人々と協働しながら、国内外においてその地域社会の発展に貢献することを希望する学生</p>

<p>学部等名 学芸学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/syllabus/hoiku/2019/164002.pdf)</p>
<p>(概要) 桜花学園大学（以下「本学」という。）は、教育基本法、学校教育法及び建学の精神に基づき、学校法人桜花学園の設置目的である信念ある女性を育成することを基本目的として、広く知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をおねそなえた優れた人材を育成するとともに、保育学部にあつては教育学・保育学にかかわる学芸、学芸学部にあつては 人文・社会科学の諸分野にかかわる学芸を教授研究し、深く真理を探求して新たな知見を 創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを目的とする。 学芸学部英語学科は、幅広い教養と論理的・創造的な思考力及びグローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力を有し、社会の各分野で貢献しうる有為な 人材の養成を目的とする</p>

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/outline/policy.html>)

(概要)

桜花学園大学は、建学の精神に基づき「信念ある女性」を育成することを基本目的とし、幅広い知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をかねそなえた優れた人材を育成し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを社会的使命としています。各学部の教育目的・教育目標に沿って設定された教育課程を履修し、厳格な成績評価を経て、幅広く専門的知識と教養を修得することにより、現代の多様な課題を発見、分析、解決し、社会に貢献できる能力を身につけたと認められる者に対して学士の学位を授与している。

学芸学部は人文・社会科学の諸分野に関わる学芸を教授研究し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する「信念ある女性」を育成することを目的としています。英語学科では「幅広い教養と論理的・創造的な思考力」および「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」を持った人材を育成することを目的としています。この教育目的に基づく教育課程を履修し、厳格な成績評価を経て卒業に必要な単位を修得し、以下に挙げる能力を身につけた者に対して、学芸学部英語学科は学士の学位を授与している。

1. グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力
2. グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力
3. 修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力
4. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/outline/policy.html>)

(概要)

桜花学園大学は、各学部・学科が定める教育目的・教育目標に基づき、学生に幅広い教養的知識を提供する「共通教育科目」と各学部学科に於いて求められる専門的知識・技能を修得するための「専門教育科目」の二本の柱でカリキュラムを編成している。「共通教育科目」は、幅広い視野を育成し、多面的・論理的な思考力とグローバルなコミュニケーション能力を養い、総合的な人間力を身につけることを目的としている。各学部の「専門教育科目」は、専門的な知識と技能を身につけ、社会の変化に対応し、現代の多様な課題を解決し、社会に貢献できる能力の育成を目的としている。将来の目標や取得を希望する免許・資格に合わせて、段階的・体系的に学修できるようカリキュラムを編成している。

学芸学部英語学科は「幅広い教養と論理的・創造的な思考力」および「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」を持った教養人を養成するため、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。

1. 広範で多様な基礎的知識と基本的な学習能力の獲得のため、総合教養科目として、健康に関する科目、言語および情報リテラシーに関する科目、国内外の社会・文化・歴史に関する科目、経済活動を含めた人間の社会的活動に関する科目、人間

性や生き方を理解するための科目を設置している。

2. 専門的な知識や方法論を体系的に学ぶために、以下の専門科目を設置している。

- 1) 基礎的な英語運用力を養うための英語コミュニケーション分野の科目
- 2) 国際理解・異文化理解を深めるための国際・地域研究分野の科目
- 3) キャリア探求の基礎を築くためのビジネスコミュニケーション分野の科目
- 4) 人間性に関する教養を涵養するための文学・言語学・教育分野の科目
- 5) 身につけた知識・能力を統合的に活用して問題を解決し、新たな価値を創造するためのセミナーおよび卒業論文

3. 批判的・論理的思考力や課題探求力やコミュニケーション能力を育成するために研究や討論を実践的に積み上げる参加型の授業を実施している。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/outline/policy.html>)

(概要)

学芸学部は、信念ある女性を育成することを基本目的とし、広い知識、高い教養と専門的能力、豊かな人間性を兼ね備えた優れた人材を育成することを教育目標としている。英語学科は「幅広い教養と論理的・創造的な思考力」および「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」を持った人材を育成する。また情報コミュニケーション技術はその教育に積極的に取り入れ、広く産業界や行政などの分野で、その教養と表現力を生かすことのできる自立した女性を育成する。

学芸学部の求める学生像

1. 異なる世界の人々をお互いの文化理解によって結びつけたいと思っている人
2. より広い視野や世界観を身につけたいと思っている人
3. ビジネスや観光で生かすことのできる、世界に通じる英語コミュニケーション能力を身につけたいと思っている人
4. 英語を教えたいと思っている人
5. ICT (情報コミュニケーション技術) を十分に活用できるようになりたいと思っている人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/major/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
保育学部	—	17人	9人	0人	3人	2人	31人
学芸学部	—	6人	5人	0人	1人	0人	12人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		91人					92人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/jyouhou.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
保育学部	175人	182人	104%	710人	772人	108%	5人	0人
学芸学部	50人	55人	110%	210人	152人	72%	5人	0人
合計	225人	237人	105%	920人	924人	100%	10人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
保育学部	157人 (100%)	0人 (0%)	155人 (98.7%)	2人 (1.3%)
学芸学部	29人 (100%)	1人 (3.4%)	22人 (75.9%)	6人 (20.7%)
合計	186人 (100%)	1人 (0.5%)	177人 (95.2%)	8人 (4.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 各市町村公務員 エイチ・アイ・エス 日本郵便 スイスポーティングジャパン ヒルトン東京 パナソニック E S エンジニアリング				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画（シラバス）の作成過程 2018年度末よりFD活動の一環として、非常勤講師打合せ会にシラバス作成要領についての説明会を実施することとした。シラバスの内容・作成要領については教務委員会で検討し、決定した内容に基づき作成依頼を行うこととしている。 ・ 授業計画の作成・公表時期 シラバスの作成については、毎年12月中旬に開講科目すべてを対象として、担当者宛てに作成依頼を送付し、担当者は、1月中旬までにWebでの登録を完了し、学科長・教務委員のチェックを経て、新年度の履修登録前までにHP上で公開している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>すべての授業科目において毎回の出席確認を実施し、あらかじめ授業計画（シラバス）に記載している評価方法に基づき厳格に学修成果を評価し、単位を与えている。また、評価の基準についても履修規程に明記している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
保育学部	保育学科	124 単位	有・無	単位
	国際教養こども学科	124 単位	有・無	単位
学芸学部	英語学科	124 単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：： https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/campusmap/index.html
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
保育学部	保育学科	685,000 円	240,000 円	432,000 円	
	国際教養 こども学科	685,000 円	240,000 円	532,000 円	
学芸学部	英語学科	685,000 円	240,000 円	432,000 円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>保育学部は、ゼミを基盤としたチュートリアルシステムによってきめ細やかな学修支援を行っている。このような少人数支援体制により、入学から卒業までの学生に対する履修指導や学修支援体制が確保されている。履修指導は教務委員と教務課職員が連携して全体的な指導を実施しており、ゼミ教員によるチューター的支援体制と教務課職員の日常的なサポート体制が学生のニーズに対応する学修支援の両輪として機能している。</p> <p>学芸学部では1・2年次を基礎演習担当教員が、3・4年次をゼミ担当教員が学修支援を行っている。履修指導は教務委員と教務課職員が連携して全体的な指導を実施し、アカデミック・アドバイザーが学生の履修科目・履修単位数等の相談・指導を行っている。また他の教職員と個別学生の履修上の問題点を情報共有することで、個々の学生ニーズにあった学修支援を行っている。</p> <p>経済的支援においては日本学生支援機構を中心に各種奨学金の紹介や申請に係る書類手続き、面接、留学などプログラム型奨学金制度への機関申請等多くの学生が利用しやすいように対応。また、学園独自の奨学金制度もあり、学修支援を実施。入学後の家計の急変への対応、学業や運動などにおいて優れた実績のある学生への経済的支援制度の充実に努めている。さらに正課教育に組み込まれている留学に関わる費用の一部補助など学修意欲を支える支援制度を用意している。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>保育学部ではゼミ担当教員、就職委員会、学生課とが連携し、本人の進路について対応している。各種ガイダンス、外部講師講演、卒業生との懇談会、保育職機関との学内合同説明会等きめ細やかな指導を展開している。また、CaCoRo—進路相談室に専門スタッフを配置し、保育職以外の相談に対応、一般企業就職希望者にはガイダンス、学内合同企業説明会への参加を促しながら、一人一人の進路への助言を行っている。学芸学部ではゼミ担当教員と学生課が連携をし、キャリア教育、外部講師講演、マナー講座をはじめとした各種講座を用意、学生の進路に応じた指導を展開している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>保健室を窓口、ゼミ担当教員、保健室担当者、学生相談室スタッフ、学生課と連携し、一人一人の状況に応じて対応している。学生相談室は月曜日・水曜日・金曜日に開室、学生が利用しやすい時間に予約、また学生相談室以外に CaCoRo—進路相談室を開設、専門スタッフを配置し、学生の利用しやすい時間帯で対応している。障がい者支援についてはガイドラインに沿って特別支援の必要な学生に対し、特別支援会議を開き、本人及び保護者と連絡を図り、希望に沿った支援を行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/jyouhou.html>